

19 津越の福寿草群落

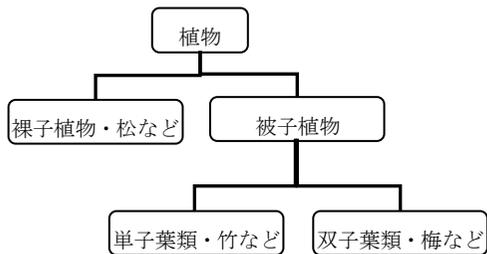
—奈良県指定の天然記念物です—

あけましておめでとうございます。

平成 20 年の新春、今年 4 月には翔太君も中学生、一層がんばってください。それから、長い間の児童会長の仕事ご苦労様でした。

さて、ちょっと長い今年の年賀状は、お正月のめでたい花・福寿草

のお話です。福寿草を知っていますね。「知らない？」そんなことはないでしょう。お母さんがお正月前に作られる寄せ植えの中にあります。これ



には、松、竹、梅がありましたね。この 3 つは長寿を表すめでたいものとして、古くからひとまとめにしてきました。でも、植物の分類では大きなグループ 3 つに分かれてしまうのは面白いことですね。

中学校理科の教科書には、胚珠がむき出しになっているのが裸子植物、胚珠が子房に包まれているものが被子植物であると書かれ、単子葉類と双子葉類が下の表のようにまとめられています。理科大好き、植物図鑑も愛読書の 1 つだという翔太君にとっては常識なのかな。

ところで、お母さんの寄せ植えにあった黄色い花、あれが福寿草です。「難を転じて福にする」という赤い実の南天と共に植えられています。

今年が翔太君、秀樹君、お父さんにとっても幸せいっば

	根	茎の維管束	葉脈	子葉
単子葉類	ひげ根	散らばっている	平行脈	1 枚
双子葉類	主根と側根	輪のように並ぶ	網状脈	2 枚

いの年になるように、そんなお母さんの思いが詰まっている玄関の寄

せ植えなのです。

その福寿草が群生しているところがあるということを教えてくれたのは五條市西吉野町(当時は吉野郡西吉野村でした)に住んでいる友人です。彼の話によると「西吉野温泉から川沿いの道をさかのぼって行ったところに津越という村がある。この近くの日当たりの良い斜面に福寿草の群落があって、県の天然記念物に指定されている。でも、持って帰る人がいて最近では減ってきている。持って帰っても、環境が違うんだから育たないんだけどね」ということでした。



福寿草はお正月の花とは言っても、旧暦のお正月のことですから、1月にはまだ咲いていません。今年、旧暦のお正月は2月7日です。その頃に行ってみれば見ることができそうです。

しかし、12年前の心筋梗塞で山歩きのような激しい運動をとめられているおじさんは行けません。もし、行くことができたなら天然記念物として大事に保護されている福寿草、採らないで撮ってきてください。

では、今年が素晴らしい年になりますように。

(やまと・平成20年1月号所載)

スポットの案内

五條市西吉野町津越へは、奈良交通五條バスセンターからバスで「城戸」下車。西吉野きすみ館を過ぎたところから東へ桧川迫川に沿ってさかのぼります。詳しいことは、城戸にある五條市役所西吉野支所(電話 0747-33-0301)で教えてもらおうといいでしょう。

理科のワンポイント「生物の分類」

住所は「奈良県〇〇市〇〇町〇〇」とか「△△郡△△村△△」のように表されます。すなわち、全国を都道府県に分け、それを郡市に分けたり、市町村に分けたりしています。県庁や市役所、あるいは会社では、大きな組織を「部」「課」「係」という語を使って系統的に整理しています。生物も同じように分類されているのです。

生物は大きく2つに分けると植物と動物になります。植物界と動物界です。一番大きな分類が「界」なのです。生物は植物か動物かに分けることができるというのが常識でした。しかし、植物界、動物界の2つではなく、これに菌界や原生生物界などの3つを加えて5つに分けるのが適当だという考え方も一般的になってきています。ほかにも6つに分ける、8つに分けるなどの説があります。

いずれにしても一番上は「界」です。次は「門」、その次は「綱(こう)」、つづいて「目」、「科」、「属」、そして最後が「種(しゅ)」です。私たち・ヒトの場合は動物界、脊索動物門、哺乳綱、サル目、ヒト科、ヒト属のヒトということになります。「門」が大きすぎると「亜門(あもん)」という階級も使われ、ヒトの場合は脊椎動物亜門のなかまです。

植物も同じように分類されます。アカマツの場合は、植物界、裸子植物門、マツ綱、マツ目、マツ科、マツ属のアカマツということになります。

なにしろ名前が付けられている種だけで、200万もあり、実際にはその数倍から10数倍もあると考えられている生物です。分類も大変な作業ですね。